

# ホテル観洋を選定 「語り部バス」評価



震災の風化を食い止める役割も担っている語り部バス

復興庁は、東日本大震災後の新しい東北の創造に向けた取り組み顕彰する「新しい東北」復興・創生顕彰を実施しているが、2018年度より10社を選定した。観光関連では南三陸ホテル観洋(宮城県南三陸町)の語り部バスの取り組みが高く評価され、受賞した。

18年度は130件の応募があり、選定委員が10件を選んだ。顕彰式は2月17日、宮城県仙台市で開かれる。ホテル観洋は、震災の風化を食い止めるため「語り部バス」を運行しているが、「運賃を通じた風化防止と交流人口の増加に伴う地域活性化に貢献している」とが評価された。

受賞の阿部恵子さんは、女性について「大変光栄です。地域のお役に立てたいと思ひ立ち上げました。いまだに従業員も使命感をもて取り組んでいます。震災から8年目になりますが、復興が進んでいるところとそうでないところがあります。「諦めない」をキーワードに今後も取り組んでいきます」と話した。

一般社団法人三陸ひととなき自然学校(宮城県釜石市)は、地域資源にスポットを当てた体験プログラムを提供などが「地域の魅力発信、関係人口の創出、人材の育成に貢献している」として選ばれた。

その他の受賞者は次の通り。  
岩手県立宮古薬高校 磨(南三陸復興みなぎ)



## 「語り部フォーラム」開催 ホテル観洋が2月24、25日

南三陸ホテル観洋は2月24、25日、同ホテルで「語り部フォーラム」を開催する。宮城県は「語り部フォーラム」を開催する。宮城県は「語り部フォーラム」を開催する。宮城県は「語り部フォーラム」を開催する。

会代表の菅氏がバネリ(現代表の高野登氏)ととなり、語り部の役割について持論を述べ、構の保存と役割を考える。コメンターは、民族研究家の結城登雄(知らない世代)つな氏、コメンターは、KATARRIB(語り部)を世界へ

○法人EDIC(岡田)台内で交流会、東北の今を語り部フォーラム(宮城県仙台市)を主催する。東北大を主催し、被災地で生まれ、広がった自身体や企業、NPOなどのさまざまな取り組みを最新線で活躍する人々が発表する。「今後の東北の在り方について考えをきっかけしたい」と登壇協賛会。

推進者やタイムスケーショナルな詳細については、推進協議会(事務局)は「新しい東北」ポータルサイトで発表する。

「新しい東北」官民連携推進協議会(事務局)は「新しい東北」ポータルサイトで発表する。

仙台市で交流会  
東北の今を知る  
官民連携推進協議会  
推進者やタイムスケーショナルな詳細については、推進協議会(事務局)は「新しい東北」ポータルサイトで発表する。

をテーマに、話し合う。災からの復興状況を知る人、問い合わせは「2019年2月2日【観光経済新聞】」  
ラエ事務局 0203264624  
参加無料 定員300名